



命を守るということ

11月初めの1週間を「防災週間」として、いつも以上に防災に関する意識や知識と行動力を高めるために様々な行事に取り組みました。年に数回、地震や火災を想定した校内での避難訓練は実施してきましたが、今回はそれ以上の緊張感や達成感を得ることができたのではないかと思います。

「命を守る」ためには、まず自らの正しい判断と勇気ある行動力が求められますが、同時にたくさんの「つながり」を常に頭に置き、『誰かのために』行動できる人になっていくべきなのだと考えさせられました。聞いたこと・見たこと・感じたこと・体験したことを今後存分に生かしてほしいと思います。

<「防災週間プログラム」>

■11月2日(月)「こころの授業」・・・吉永 SC による「こころの授業」を実施しました。

■11月5日(木)「防災講演会」

岩手大学地域防災研究センター長 越谷 信教授、松林由里子助教からのご講話と地域防災を考えるワークショップを行いました。自分たちの地域における危険区域や水害対策を考えました。



■11月6日(金)防災探究「大槌高校復興研究会のみなさんから学ぶ」

地域に生きる一人として自分たちが復興や防災にどのように関わることができるかを考え、行動を続けている大槌高校復興研究会のみなさんをお迎えしました。“定点観測”の活動の様子や子どもたちに分かりやすく伝えるために作成した防災紙芝居を聞いたり、防災を進めていくための心構えを一緒に考えたりすることができました。

貴重な時間をいただいた生徒たちからは、「自分がどう考えて行動すれば良いか考えることができた」「明日や今後の避難訓練に生かしたい」「東日本大震災のことはあまり覚えていないけれど、防災紙芝居で知ることができて深く考えさせられた」などの感想が出され、一人ひとりが『自分事』として考えることができていたように思います。



■11月7日(土)小中合同避難訓練・避難所設営訓練

大槌町・大槌町消防第3分団のみなさまのご協力をいただいた登校時における小中合同避難訓練と学校が避難所になることを仮定した避難所設営訓練を行いました。避難訓練には地域の皆さまにもご参加いただきました。おかげで整然と、緊張感を持って行動できていたように思います。



避難所設営訓練は、9年生をリーダーとしながら、全員が役割と責任を持って行動しました。先生方は「いっさい口を出さない、指示しない」を合言葉に生徒たちを見守りました。この我慢を体験したことは、先生方にとっても貴重でした（笑）

様々な状況を想定し、これまでの学びで得てきた『自分たちで考え、行動し、修正する』ことを思い出しながら活動することができました。このような避難所を設営する状況にならないことが一番ですが、もしもそのような状況になったとしても、地域の一員として大切な“力”となれると確信しました。今後も機会を捉えて継続していきたいと思います。



（最後に炊き出し班が用意してくれた塩おにぎりとリンゴをいただきました）

桜の戦士がやってきた!!

「代表に選ばれなかったり、ケガをしたり、辛いときもありましたが、それを乗り越えて今につながっているのだと思います。」

私たちの誇れる先輩であり、郷土の誇りでもあるラグビー女子日本代表の平野恵里子選手が、11月17日(火)の全校朝会に急遽参加してくださいました。大変お忙しい中でしたが、時間を作って母校の後輩たちにメッセージを伝えてくれました。決して順風満帆ではない道のりだったようですが、諦めることなく、努力を今も継続さ

れています。現在は奥州市にあるチームで練習しているそうですが、今後は海外での活動も視野に入れているとのこと。ますますの活躍を応援しましょう。

がんばれ!! 平野選手!!



中学生当時の恩師・箱山先生と